

誰ひとり取り残さず、
よりよい世界を目指す
「SDGs」

SDGsとは「Sustainable(持続可能)」「Development(開発)」「Goals(目標)」の頭文字を取った言葉で、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。持続可能でよりよい社会の実現に向け、2015年の国連サミットですべての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で掲げられた世界共通の目標です。17のゴールと、ゴールに紐づく169のターゲットから構成され、2030年までの達成を目指しています。

17のゴールには、貧困や飢餓、教育などの社会問題の視点の目標、エネルギーや資源の有効活用、働き方改革、不平等の解消などの経済成長的視点の目標、地球環境や気候変動などの地球規模的視点の目標の3つの側面があり、これらを総合的に解決していくことで、「誰ひとり取り残さない」ことを理念としてよりよい世界を目指すものです。

なぜ、私たちが
「今」取り組まなければ
ならないのか

感染症のまん延、紛争の勃発、頻発する異常気象、貧困や地域間の不平等など、我々人類が抱えている課題は数え切れません。さまざまな技術が急速に発展している世界であっても、課題は解決しないばかりか増えていく一方です。

「このままでは、我々人類は安定してこの世界で暮らし続けることができなくなる」そんな危機感を持った世界中のさまざまな立場の方々が現状を整理し、どのような取組みを達成すれば、この尊い地球に住み続けることができるのかを具体的に示したものが、それがSDGsです。

この地球規模の変革は、世界各国の政府や企業の力だけでは達成できません。全世界の一人ひとりが意識を変えることで、傾きかけた地球を元の軸に戻すことができるのです。そして、尊い地球を次世代につないでいくためには、手遅れになる前に始めなければなりません。それが「今」を生きる私たちに課せられた使命なのです。

市の計画・政策とSDGsの理念

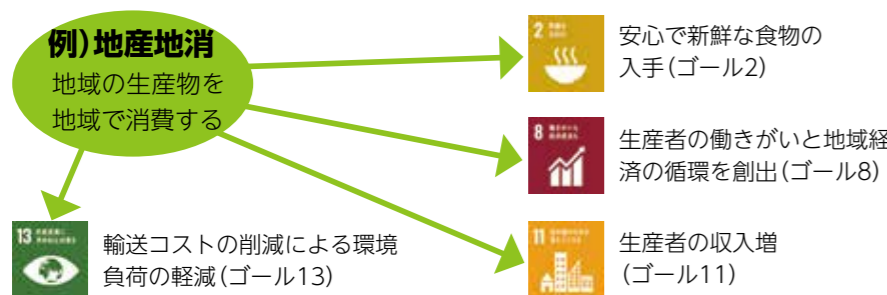
市では、20年後の理想の未来を定めた第6次基本構想の中で、子や孫などの次世代へのバトンタッチを意識し、自らの歩みで「充実した日々」を送ることができ、未来を目指すこととしています。私たちが目指す理想の未来とSDGsが目指す「誰ひとり取り残さない」持続可能な社会は、方向性が同じであるため、市で取り組む政策はSDGsのゴール達成に貢献するものです。

第6次基本構想の実現に向け、今後5年間の行政経営の指針として定めた第6次基本構想・第1期基本計画では、各政策とSDGsのゴールを紐づけ、「社会」「経済」「環境」の3つの要素のバランスが取れた政策を推進することとしています。

例えば、都市開発を進める一方、自然環境の保全に取り組むことで環境負荷のバランスを保つとともに、各政策の相乗効果で持続可能なまちづくりを推進するなど、SDGsの活用による政策の最適化

SDGsは1行動1ゴールではない

私たちの行動をSDGsを通して見ると、さまざまなゴールに貢献していることがわかり、これまでとは別の視点で物事を見ることができるようになります。



と地域の課題解決の加速化を進めていきます。また、まちづくりは行政のみで取り組むのではなく、ゴール17「実施手段」に定められているとおり、市民や事業者、行政がともに考え、行動していくことで、より一層の効果を発揮することが期待できます。

SDGsの17のゴール

ゴール1 貧困 あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる	ゴール2 飢餓 飢餓を終わらせ、食料安全保障および栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する	ゴール3 保健 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
ゴール4 教育 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	ゴール5 ジェンダー ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児のエンパワーメントを行う	ゴール6 水・衛生 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
ゴール7 エネルギー すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	ゴール8 経済成長と雇用 包摂的かつ持続可能な経済成長およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する	ゴール9 インフラ、産業化、イノベーション 強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進を図る
ゴール10 不平等 国内および各国間での不平等を是正する	ゴール11 持続可能な都市 包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市および人間居住を実現する	ゴール12 持続可能な消費と生産 持続可能な消費生産形態を確保する
ゴール13 気候変動 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる	ゴール14 海洋資源 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	ゴール15 陸上資源 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様性の損失を阻止する
ゴール16 平和 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	ゴール17 実施手段 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化	

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

富士見市とSDGs

問 政策企画課 ☎049-257-4136

SDGsに関する市の取り組みは、市ホームページでもご覧になれます。



■あおい糸のSDGs達成に向けた取組み

- 1 貧困をなくそう
 - 3 すべての人に健康と福祉を
 - 5 ジェンダー平等を推進しよう
 - 11 持続可能な都市を築こう
 - 16 平和と公正な社会を築こう
 - 17 パートナリシップで目標を達成しよう
- ・小規模保育、医療、福祉サービスの提供による地域福祉の向上
 - ・地域内でのワンストップサービスの提供
 - ・子ども食堂の開設運営
 - ・障がい者雇用の増加
 - ・テレワークや在宅勤務を充実し、勤務時間にこだわらない勤務体制の構築
 - ・女性管理職の増加 など



地域からまちから 広がるSDGs



地域でも取組みが進められています

ここでは、SDGsの達成に向けた地域の取組みを紹介します。



【実践例①】市の取組み 再生可能エネルギー普及の推進

環境課 ☎049-252-7129

令和2年度の1人1日あたりの排出量の少なさが県内1位である富士見市。過去10年間においても県内1位になること7回の本市ですが、市全体の環境に関する問題意識をさらに啓発し、取組みを進めていくため、4月10日の市制施行50周年記念式典で「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。

また、第6次基本構想・第1期基本計画に定められている基本政策の1つ「持続可能な生活環境で過ごす」がSDGsの複数のゴールと紐づけられており、環境分野の取組みは市の重要な政策の1つに位置づけられています。

宣言の実現に向け、令和4年度はこれまで市民の皆さんに呼びかけてきた「生ごみ水切り」のモニター制度を実施します(下記参照)。生ごみはその80%が水分といわれており、モニター制度の実施により水切りを推進することで、可燃ごみの減量化や焼却施設の燃焼効率の向上、ゴミ処理費用の削減が期待できます。

さらに、これまで個人を対象としていた再生可能エネルギー機器の設置や次世代自動車の購入に係る費用の補助を事業者にも拡充するとともに補助メニューも増やしました(P13参照)。市民や事業者が協力を果たして持続可能なまちづくりに取り組める施策を展開していきます。

■ゼロカーボンシティ宣言

脱炭素社会に向けて2050年までに二酸化炭素実質排出量ゼロを目指すことを表明するもの。「実質排出量ゼロ」とは、二酸化炭素などの温室効果ガスの人為的な排出量から、植林・森林管理などによる吸収量を差し引き、合計をゼロにすることを意味している。



市制施行50周年記念式典で宣言する星野市長

【実践例②】市で活動する団体の取組み 地域にSDGsが広まれば、まちはもっと良くなる

「支援が必要な方、少し支援ができる方、支援が必要のない方、みんなが一緒に地域で暮らせるまちにしたいんです」と語るのは、市内で訪問介護事業やグループホーム運営事業を営むNPO法人「あおい糸」理事の関光弘さん。入居希望者の状態によっては入居がしづらい物件がある中、どんな状態の方でも入居できるアパートの運営に力を入れています。

あおい糸は、埼玉県SDGsパートナー制度登録団体としてさらなるSDGsの推進に取り組んでいます。関さんはSDGsに取り組んだきっかけを「私たちの事業自体がSDGsにつながるため、それならぜひ県の制度にも登録して進めてみよう」と。いざ取り組んでみると、幅広いSDGsのゴールを学ぶことで利用者への理解が深まったほか、職場の業務効率や福利厚生も向上し、従業員・利用者全員の幸せにつながる「わがわが」になりました」と語りました。また、



SDGsの意義を語る理事の関光弘さん

「地域団体は地域のミクロな課題を捉えやすく、私たちは今年度にも子ども食堂の開設を予定しています。また、SDGsのゴールは幅広く、例えば、社内備品の見直しや節電・節水など、新たな事業に手を広げなくても貢献できることがあります。大切なのは、一人ひとりが意識してコツコツ取り組むこと。それを積み重ねていけば、地域はもっと良い方向に変わっていくはずですよ」と地域ぐるみでSDGsに取り組むことが地域の明るい未来につながることを確信していました。

PROFILE NPO法人あおい糸

所在地：羽沢2-5-48 ☎049-293-1910

「あおい空のように あおい海のように 広く深い絆」を理念に、障がいのある方や高齢者の方が地域で暮らせるよう支援するため、訪問介護事業や居宅介護事業などを実施している福祉事業所。

令和2年12月、埼玉県SDGsパートナー制度に登録。

埼玉県SDGsパートナー

SDGsに自ら取り組むとともに、県と連携してSDGsを普及する企業・団体などを登録する制度。登録すると、県の産業創造資金が利用できるなどの特典がある。

☎ 県計画調整課総括・SDGs推進担当 ☎048-830-2133



生ごみの水切りモニター募集

生ごみの水切りグッズを使い、結果を記録します。
モニター期間 7月1日(金)~8月31日(水)の間で3週間
人数 150人程度(無料、申込順)
対象 市内在住の方(一世帯1人)
内容 水切り前後の生ごみの重さを記録し、モニター終了後に報告書の記入とアンケートに回答
申込 6月30日(木)までに直接
問・申込先 環境課 ☎049-252-7100

市の取組みは上記以外にも▶▶▶▶▶▶

子ども・若者の居場所・仲間づくり
 身近に利用できる子ども食堂や学習支援、若者の居場所活動に取り組む団体を支援しています。

パートナーシップ宣誓制度などの「人権教育・啓発、男女共同参画の推進」
 すべての市民一人ひとりが尊重され、個性や能力を発揮して活躍できるまちの実現に向けた取組みを進めています。

さあ、あなたもSDGsの輪の中に



一人ひとりの行動がSDGsにつながります

SDGsは国や自治体、企業の取組みだけでは達成できません。一人ひとりのSDGsへの小さな取組みが、目標の達成に貢献します。さあ、あなたも自分にできることからチャレンジしませんか。

子どもたちのSDGsの取組み

「残さず食べよう」

鶴瀬小学校

鶴瀬小学校では、給食の食べ残しを「もったいない」と感じてもらい、食品ロスやSDGsに興味関心を広げるきっかけづくりとして、給食を自分が食べられる量だけ取り分ける取組みを行っています。

以前から多くの児童が食缶に残っている食べ残しに疑問を持っていたことから始まったこの取組み。身のまわりのちょっとしたSDGsに気づき、世界のために自分ができることについて考えるチカラが育まれています。



- 13 気候変動に具体的な対策を**
 - **できるだけ公共交通機関を利用する**
 - ・化石燃料を使わない自転車を利用する
 - ・温室効果ガス排出量を分け合えるバスや電車を使う
- 5 性別平等を推進する**
 - **家事を平等に分担する**
 - ・家事や育児をパートナーで分け合い、ジェンダー平等を進める
- 11 持続可能な都市とコミュニティを築く**
 - **災害に備えておく**
 - ・日ごろから避難経路を確認しておく
 - ・飲料水や非常食などの備蓄をしておく
- 7 持続可能なエネルギーを確保する**
 - **持続可能なエネルギーを使う**
 - ・LED電球への切替え、グリーン電力の選択、太陽光発電や非ガソリン車の導入などを行う

- 13 気候変動に具体的な対策を**
 - **節電・節水を心がける**
 - ・使用していない家電の電源を切る
 - ・水道やシャワーなどを出しっぱなしにしない
- 12 持続可能な消費と生産パターン**
 - **使い捨てプラスチック製品の使用の削減**
 - ・買物にはマイバックを使用する
 - ・マイボトルを持ち歩く
- 12 持続可能な消費と生産パターン**
 - **フードロスの削減**
 - ・食材は食べきれる量だけ買う
 - ・賞味期限が近いものから買う
- 13 気候変動に具体的な対策を**
 - **再利用・リサイクルを意識する**
 - ・ごみはきちんと分別する
 - ・リサイクルを積極的に行う

埼玉県公式SDGs学習アプリ「エスキューブ」

SDGsについて動画や文章・クイズで楽しく学べます。SDGsに貢献する行動に応じてポイントを得られ、貯めたポイントでくじにチャレンジすると景品が当たります。

県 県計画調整課
総括・SDGs推進担当
☎048-830-2133



市でも、今後、さらなる高齢化や人口減少などの課題に直面することが予想されています。これらの課題を克服し、理想の未来を実現するために、市民・事業者・行政が一体となって取り組む必要があります。SDGsは課題解決の手段であると同時に市全体の絆を強めるきっかけでもあり、地域一丸となって取り組むことで相乗効果を生み出します。地域全体で持続可能なまちづくりを進めるための鍵は、私たち一人ひとりの行動です。さあ、あなたも「誰ひとり取り残すことのない明るい未来」を目指して、できることから始めてみませんか。

「地域ぐるみでの取組み」相乗効果を生み出す

国際連合によるSDGs入門ガイド

- 誰もが簡単に取り組めるSDGsを4つのレベルに分けて紹介しています。
- ①ソファに寝たままできること
 - ②家にいてもできること
 - ③家の外でできること
 - ④職場でできること



SDGsは、世界を変える壮大な目標です。その実現にはこの世界で暮らす一人ひとりが力を合わせる必要があります。それは決して不可能ではありません。日常の生活の中には「ちょっとしたSDGs」が数多く存在しています。それを少しずつでも実行していくことが世界を変える「小さな一歩」。世界中の仲間たちが実践すれば、世界を大きく変えることもできるはず。すべてのゴールやターゲットを理解していなくても大丈夫です。簡単で無理のないものから一つでも取り組んでみましょう。

「ちょっとしたこと」の積み重ねが世界を変える